

『自分のがまんの限界を知った日』

小城市立桜岡小学校 6年 たなかまる よしの 田中丸 芳乃

五年生のゴールデンウィーク明けから理由は分からなかったが、今まで仲良かったクラスの女子数名から急に仲間はずれが始まりました。

「おはよう」と言っても無視されたり「一緒に遊ぼう」と声かけたら、わざと私を一人ぼっちにしてみんなで遊びに行ったりとそんな日々が毎日続くようになりました。「これってもしかしていじめなの？私何かしたのかな？」と分からなかったので無視されても今まで仲良く遊んでいた友達の所へ毎日行き勇気を出して自分から声をかけていきました。でも一緒に遊んだりすることはなく一人ぼっちになっていました。親にも先生にも相談することがはずかしいと思い話せなかった私。でもしばらくしてお母さんには、今の自分の学校での出来事をおもいきってうちあげました。

自分の中の心が少しだけスーッと軽くなったのを覚えています。

私はみんなと仲良くなりたかったし自分の力でいじめを解決したかったので毎日あいさつをしたり、遊ぼうと言いつづけました。それが自分ができる、がんばれる方法だと思ったからです。

でもうまくいきません。20分休み、昼休み、みんなが外へ遊びに行くと私は教室に一人ぼっち。泣きたかったけどがまんしてただただ長い時間が早く過ぎることばかり考えていました。学校で過ごす時間がとても長く感じていました。楽しくなかったからです。色々自分なりに約半年がんばった

けれど最後は学校へ行きたくなくなりました。

私の限界でした。

お母さんに泣きながら全部話しました。お母さんも一緒に泣きながら私の話を聞いてくれて、「よく半年も長い間一人でがんばったね。これからは、お母さんががんばるからよしのは何の心配もいらない。大丈夫だよ」と言ってくれたのを今でも覚えています。

お母さんが担任の先生と話し、先生のおかげでイジメはすぐなくなりました。

なぜこのような自分の体験を話そうと思った理由はイジメは絶対によくないこととしってもらいたかったからです。している側は集団でしているから楽しいと思う。されている側はとつてもきずつきます。この経験を通して私は絶対にイジメはしない！！そして回りでイジメがあっていたら、勇気を出してイジメている集団に対して「イジメはしたらダメだよ」と強い心を持っていいに行く、そんな私でありたいと思っています。

その強さを学んだのは私の半年の体験から生まれたものです。そしてもし、イジメでなやんでる人がいたら一人でなやまず回りの大人、親、先生に相談すること。けっしてはずかしいことではない。

「勇気を出して、明るい未来がまっているから」と私はメッセージを送ります。